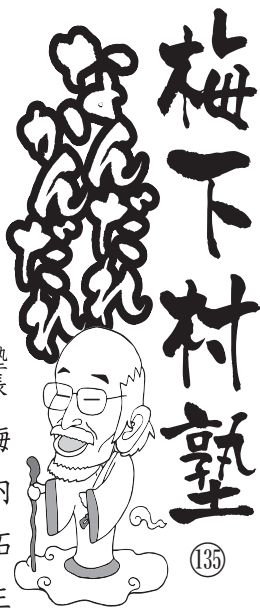


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

現代)
(スケープゴートと

1月25日付の世迷言は安倍首相の靖国神社参拝への中国と韓国の相変わらずの非難へのコメントをしている。靖国神社参拝は国内問題であり、これに外国からどつこのうのと文句を言われる筋のものではないと言っている。日本のマスコミの論調もおかしい。6大新聞のうちの5大新聞は靖国参拝へ反対の態度を示しており、産経新聞1紙だけがこれに同調していない。日本のマスコミをリードしている朝日新聞、毎日新聞は、第2次大戦中は軍部の宣伝の旗振りをしてきた。それが敗戦後は、がらりと態度を変えて、外国の論調に迎合しているのでは

第2次世界大戦中の日本の同盟国であったドイツ(西ドイツ)政府はヒトラーの戦争犯罪への戦勝国による裁判の、判決の事実を受け入れながらも、自国による憲法設定への干渉は拒否した。スケープゴートの自縛に陥ることを拒否したのである。日本には「長いものには巻かれろ」という習性がある。マッカーサー元帥のGHQによる日本統治、極東国際軍事裁判、国連加盟の戦争賠償を決めたサンフランシスコ平和条約、これらの縛りはスケープゴートとして現在も日本を縛っている。安倍首相の腹づもりはこの縛りから自由になるためのものなの

であろう。

歴史を眺めても、大和朝廷の東国制覇に反対して立ち上がった蝦夷の大酋長のアテルイを処刑した大和朝廷のやり方は、まさにスケープゴートの血である。縄文蝦夷の文化を引き継いでいる気仙地方から、スケープゴートを超えた「地球文明共同体」への新しい道を発信する時が来ている。

(岩手国体と東京オリンピック・パラリンピック)

1月25日付の第1面の新春インタビュー 2014年 気仙の銘路に大船渡市体育協会会長の水野雅之亮氏の記事が掲載されている。「市民の健康も視野に国体での県勢活躍にも期待 2年後には岩手国体が控えており、6年後には東京オリンピックも開催される」と述べている。

たま文華塾」を立ち上げ、地域文化として受け継がれているあきる野市の「五日市民衆自主憲法」として知られている草の根自主憲法の精神を東京オリンピック・パラリンピックにつなげる活動を展開している。

「にしたま文華塾」

は東京オリンピックの主たる競技はオリンピックスタジアムの近郊で行われる、コンパクトなオリンピックとうたわれているが、西多摩地域では「もう一つのオリンピック」として世界の国々と共有する地域文化価値を交換し、育成することを旨とすることを計画している。これはギリシャの古代オリンピックにうたわられている「健全な精神は健全な肉体に宿る」という言葉をさらに深め、発展させ「健全な精神は健全な肉体と健全な社会に宿る」ということばで表した。英語では「Sound mind in sound body and sound society」と表

される。気仙地方から生まれた魂と心が「梅下村」とつながって岩手国体と東京オリンピック・パラリンピックを通して世界の魂と心につながることを願っている。

(東海新報記事から)

第7面の「寒暖差激しい一日に24日の気仙地方 朝底冷え、日中は3月並み」に掲載されている「文字通り『樹氷』となったスギ大船渡」の写真、第6面の「けせん」の詩 フォト・ストーリー 何が空を変えたか 空が季節を変えたか、その時々に変えるが、この時の空は、またもやただならぬ天災が起こる前ぶれではと不安にさせるに十分な不気味さを漂わせていた、「これらの記事には宇宙の底しれぬ不思議さを感じさせるものがあり、気仙の歴史と文化の魂と心がこれらの記事を生み出したと感じており、これが世界と共有されることを願う。